

大麦栽培管理情報(第2号)



- 高品質麦の安定生産には、「排水対策の徹底」が最も重要です。
随時、排水溝の再確認と手直しを行いましょう。
- 分施体系の場合は、播種後1ヶ月頃を目安に追肥をしましょう。
- カラスノエンドウが多い圃場では、遅れずに除草剤を散布しましょう。

1. 排水対策の再確認

- 排水溝が排水口まで連結されているかを再度確認し、圃場内に水が溜まらないよう、随時手直ししましょう。
- 降雨後に停滞水が残る場合は、溝を深く掘り下げたり、新たな溝を掘るなどして、早急に圃場外へ排水しましょう。



排水溝は、収穫時まで随時手直しを行い、根張りの向上を図りましょう!



2. 雑草対策

○カラスノエンドウが多い圃場では、播種後30~45日頃に茎葉処理剤を散布しましょう。

除草剤名	適用雑草	使用時期	10aあたり使用量	使用方法
アクチノール乳剤	畑地一年生 広葉雑草	カラスノエンドウが2~3葉期頃 穂ばらみ期まで	100~200ml (希釈水量100L)	茎葉 散布

New

3. 年内追肥(分施体系)

○越冬前に適正な生育量を確保するため、播種後1ヶ月頃の追肥を施用しましょう。

施肥時期	肥料名	施用量
播種後1ヶ月頃 (11月上旬頃)	硫安(つぶっこ)	20kg/10a



カラスノエンドウ3葉期

※LP大麦48号を施用している場合は必要ありません。

以下の場合には各営農経済センターへご相談下さい。

- LP大麦48号が規定量入らず、茎数が少なく葉色が淡い場合
- 分施体系で12月上旬に茎数が少なく(500本/m²以下)、葉色が淡い場合